

高知県長期漁海況予報

2026年下半期の漁況・海況の予報

2026年 8 月 発行 高知県水産試験場

このたび「令和 8 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」が開催され、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、高知県、関係都道府県等による最新の調査結果から、2026年 8 月から12月の期間についての長期漁海況予報が作成されました (<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>)。高知県関係を中心に、その概要をお知らせします。

予報の概要

海況（8 月から12月）

黒潮：8 月から12月にかけて、足摺岬及び室戸岬沖とも接岸傾向で推移するが、一時的に離岸することがある。黒潮流軸は、N型基調で推移するが、9 月までは一時的にB型またはC型となる。
沿岸水温：土佐湾の沿岸表層水温は、8 月から10月は「平年並」から「高め」で推移する。

漁況（8 月から 12 月）

ゴマサバ（立縄）：	前年を上回るものの平年を下回る
マアジ：	前年を下回る
マイワシ：	前年上回る
カタクチイワシ：	前年並
ウルメイワシ：	前年を下回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海 況

【海況の経過（2026年3月から7月）】

1 黒潮

潮岬以東の黒潮流型は、3月～4月上旬にかけてB型基調で推移し、その後はN型で推移しました。3月には、B型とD型を重ね合わせた流型がみられました。

3月～8月上旬にかけて高知県沖の黒潮はおおむね直線流路でした。足摺岬から黒潮流軸までの距離は、3月中は5～15マイル（接岸）で推移しました。4月上旬には、都井岬沖で2月に発生した小蛇行の影響で、一時40マイル（やや離岸）となりました。4月中旬には再び接岸に転じ、6月上旬まで5～15マイル（接岸）で推移しました。6月中旬から7月中旬には小蛇行の東進により35～65マイル（著しく離岸～やや離岸）となりました。

室戸岬沖の黒潮流軸までの距離は、3月～8月上旬まで5～20マイル（接岸）で推移しました（表1、図1、2）。

表1 黒潮流軸位置階級区分
（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲(マイル)
接 岸	< 25
やや離岸	25 ≤、< 45
かなり離岸	45 ≤、< 65
著しく離岸	65 ≤

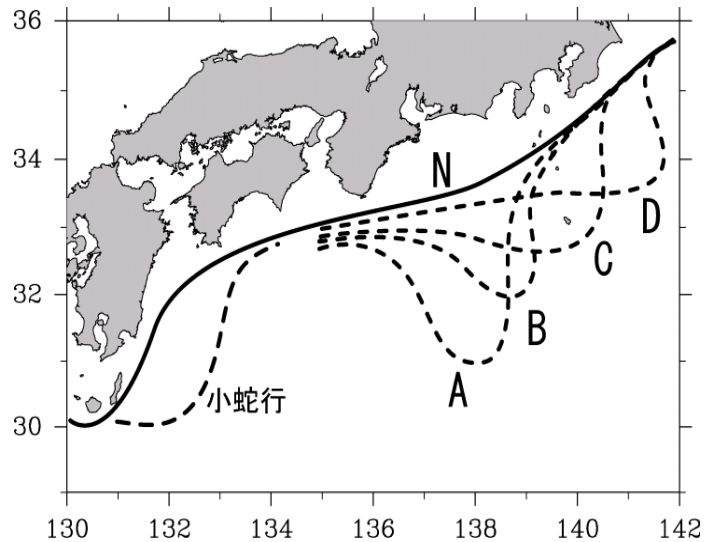


図1 黒潮大蛇行の流路パターン

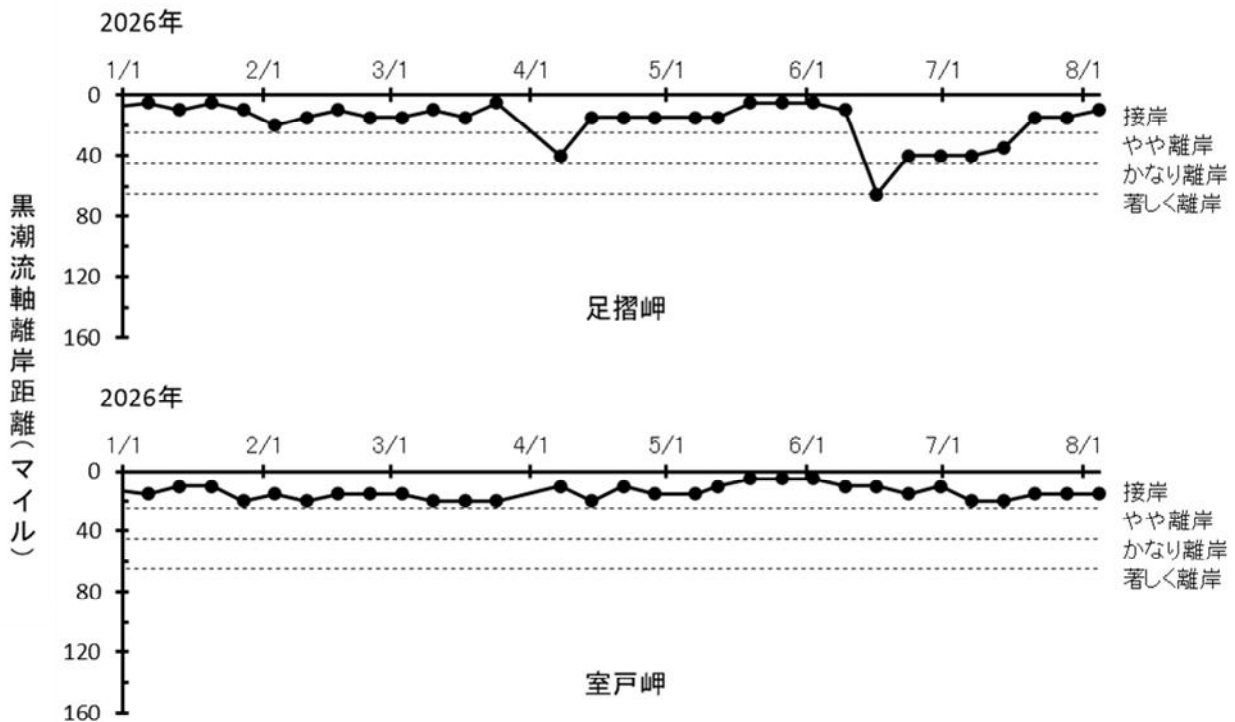


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

※流軸離岸距離は、正南（S）方向

2 沿岸水温

沿岸定線調査によると、2026年3月の土佐湾沿岸の水温は、水深0～10mで「やや高め」、20～125mで「平年並」、150～200mで「やや高め」でした。

4月は、水深0mで「やや高め」、10mで「かなり高め」、20～50mで「やや高め」、75～175mで「平年並」、200mで「やや低め」でした。

5月は、水深0～10mで「やや高め」、20～30mで「かなり高め」、50～100mで「やや高め」、125～175mで「平年並」、200mで「やや高め」でした。

6月は、水深0mで「やや高め」、水深10mで「かなり高め」、20～100mで「著しく高め」、125～150mで「かなり高め」、175mで「やや高め」、200mで「平年並」でした。

7月は、水深0mで「平年並」、10mで「やや高め」、20～200mで「かなり高め」でした（図3、表2、3）。

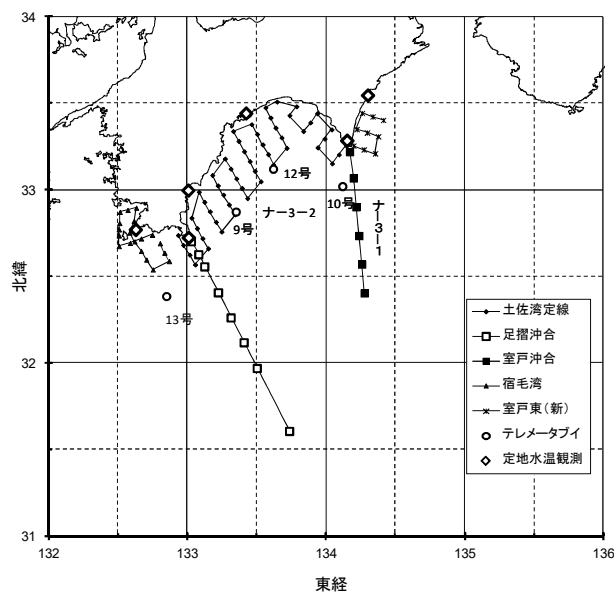


図3

表2 2025年1月～7月の土佐湾内水深別水温偏差

水深	2026年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
0m	+-	+-	+	+	+	+	+-
10m	+-	+-	+	++	+	++	+
20m	+-	+-	+-	+	++	+++	++
30m	+-	+-	+-	+	++	+++	++
50m	+-	+-	+-	+	+	+++	++
75m	+-	+-	+-	+-	+	+++	++
100m	+-	-	+-	+-	+	+++	++
125m	+-	-	+-	+-	+-	++	++
150m	+-	-	+	+-	+-	++	++
175m	+-	--	+	+-	+-	+	++
200m	-	--	+	-	+	+-	++

※平年値の算出範囲は1996～2025年

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲	記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2℃以上	---	著しく低め	-2.2℃以下
++	かなり高め	1.3～2.2℃	--	かなり低め	-1.3～-2.2℃
+	やや高め	0.6～1.3℃	-	やや低め	-0.6～-1.3℃
+-	平年並（プラス基調）	0.0～0.6℃	-+	平年並（マイナス基調）	0.0～-0.6℃

3 特異現象（3～7月）

<海況>

- ・6月中旬に九州南東沖から東進を開始した黒潮の小蛇行は、土佐湾沖を東進しながら徐々

に衰退し、7月下旬に紀伊水道沖で消失しました。

- ・ 3月31日に低気圧が日本海を東進した際、土佐湾東部において急潮が発生し、定置網1統が被害を受けました。当時、近隣海域では、北北西向きの急潮（約1.0ノット）を観測しました。
- ・ 4月4日に低気圧が日本海を東進した際、室戸東岸において北北東向きの急潮（1.0ノット以上）を断続的に観測し、同エリアの定置網に破網等の被害が発生しました。
- ・ 台風6号が土佐湾沖を東進した際、室戸東岸において、6月3日～4日にかけて南南西向きの急潮（1.0ノット以上）を断続的に観測しました。
- ・ 6月7日に土佐湾沖を低気圧が東進した際、室戸東岸において南南西向きの急潮（1.0ノット以上）を断続的に観測しました。
- ・ 台風7号が四国沖を東進した後の6月29～30日にかけて、室戸東岸において南南西向きの急潮（1.0ノット以上）を断続的に観測しました。

<漁況>

- ・ マルソウダ（1～6月）

県東部の大型定置網による漁獲量は525.4tで、前年に比べ不漁でした（前年比39.5%、平年（2015-2024年 以下同じ）比115.7%）。

県西部の大型定置網による漁獲量は125.1tで、前年に比べ不漁でした（前年比43.5%、平年比130.0%）。

曳縄による漁獲量は779.9tで、不漁でした（前年比69.8%、平年比36.2%）。

- ・ マイワシ（4～6月）

宿毛湾の中型まき網による漁獲量は3083.0tで、好漁でした（前年比786%、平年比999%）。

- ・ シラス（4～6月）

機船船曳網による漁獲量は0.3tで、不漁でした（前年比0%、平年比0%）。

- ・ キンメダイ（1～6月）

高知県漁協芸東統括室戸岬支所（旧室戸統括支所）の釣りによる漁獲量は52kgで、不漁でした（前年比0%、平年比0.1%）。

高知県漁協清水統括支所の釣りによる漁獲量は34.5tで、好漁でした（前年比583%、平年比331%）。

- ・ カツオ（1～4月）

主要4市場（土佐清水・佐賀・宇佐・甲浦）の沿岸竿釣による漁獲量は366.1tで、好漁でした（前年比436%、平年比287%）。

主要6市場（土佐清水、佐賀、宇佐、加須郷、甲浦、室戸）の沿岸曳縄による漁獲量は54.3tで、前年に比べ好漁でした（前年比167%、平年比100%）。

- ・ キハダ（1～4月）

釣りによる漁獲量は167.5tで、好漁でした（前年比412%、平年比381%）。

大型定置網による漁獲量は31.6tで、好漁でした（前年比249%、平年比324%）。

【今後の見通し（2026年8月から10月）】

1 黒潮

足摺岬沖及び室戸岬沖ともに接岸傾向で推移する見込みです。ただし、都井岬沖に新たな小蛇行が形成された場合、その東進に伴って足摺岬沖及び室戸岬沖で一時的に離岸することがあります。

2 沿岸の水温

土佐湾沿岸域における8～10月の表層水温は、「平年並」から「高め」で推移しそうです。

【予測の根拠】

1 黒潮

気象庁の表層水温・海流実況図、JCOPE-T及びJCOPE3Mの予測に準じました。

2 沿岸の水温

気象庁発表の「季節予報」（令和8年7月21日発表、予報期間：令和8年8月～10月）によると、8～10月の気温は四国地方で高くなる確率が40%、平年並となる確率が40%でした。また、地球温暖化やエルニーニョ現象等により熱帯域を中心に大気全体の温度が高いため、全国的に暖かい空気に覆われやすい予報です。

表層水温は気象の影響を受けやすく、今後気温の上昇に伴い高くなると考えられます。また、7月の土佐湾の表層水温が「平年並」であったこと及び今後黒潮が接岸傾向で推移すると予測されることなどを併せると、予測期間における土佐湾沿岸域の表層水温は、平年並か高くなると予測しました。

漁 況

I さば類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（2026年1月から6月）】

- (1) 宿毛湾の中型まき網によるサバ類水揚量は590.3トンで、前年比202.8%、平年比*55.5%でした。CPUEは1.7トン/日/統で、前年比33.8%、平年比193.3%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるゴマサバ水揚量は69.1トンで、前年比155.1%、平年比58.8%、マサバ水揚量は11.8トンで、前年比13.1%、平年比12.6%でした。
- (3) 立縄（足摺岬周辺）によるゴマサバ水揚量は25.7トンで、前年比73.2%、平年比35.7%で、CPUEは60.3kg/日/隻で前年比106.3%、平年比133.3%でした。また、水揚げの主体はゴマサバでした。

※平年比：10年平均（2015年から2024年）

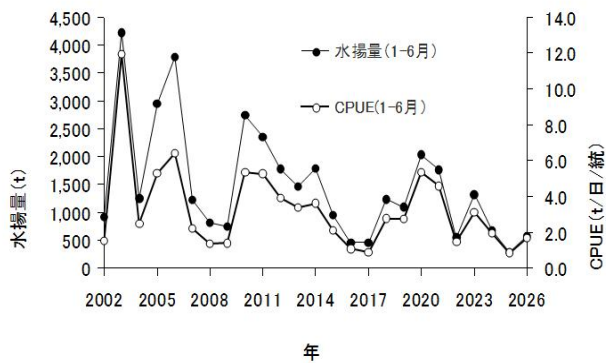


図4 宿毛湾中型まき網によるさば類水揚量及びCPUE

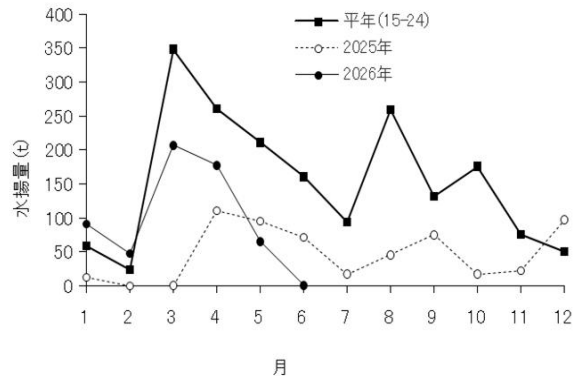


図5 宿毛湾中型まき網による月別さば類水揚量

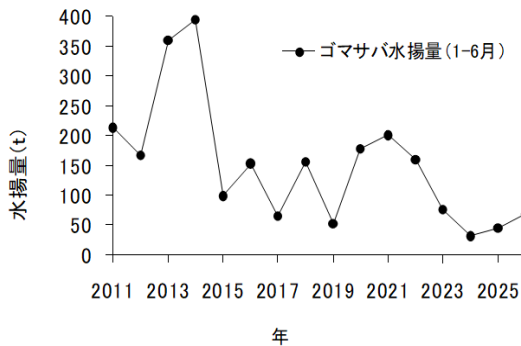


図6 大型定置網（窪津・椎名）によるゴマサバ水揚量

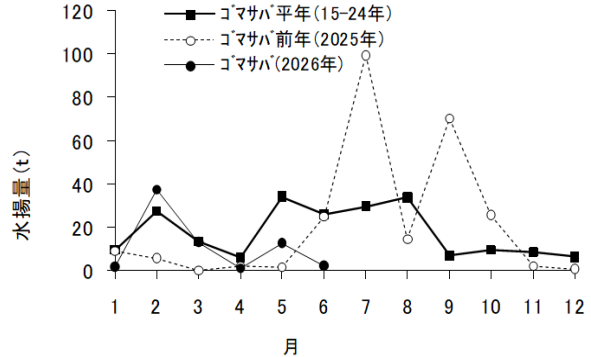


図7 大型定置網（窪津・椎名）による月別ゴマサバ水揚量

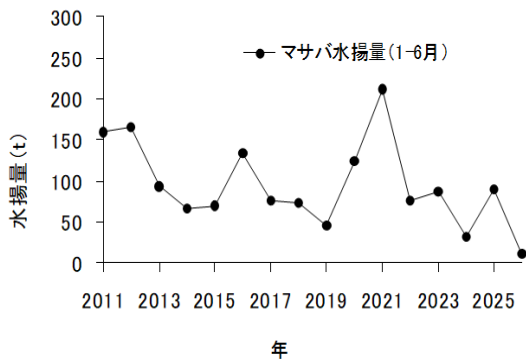


図8 大型定置網（窪津・椎名）によるマサバ水揚量

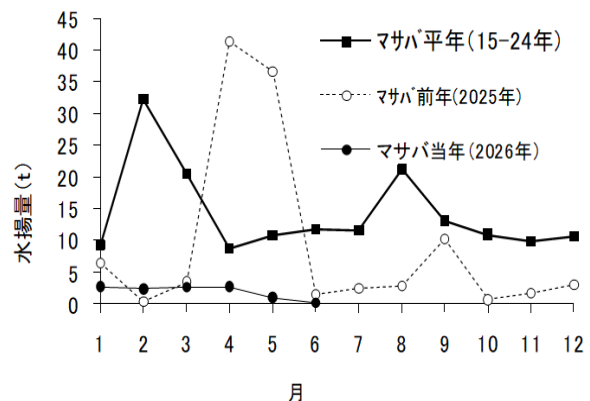


図9 大型定置網（窪津・椎名）による月別マサバ水揚量

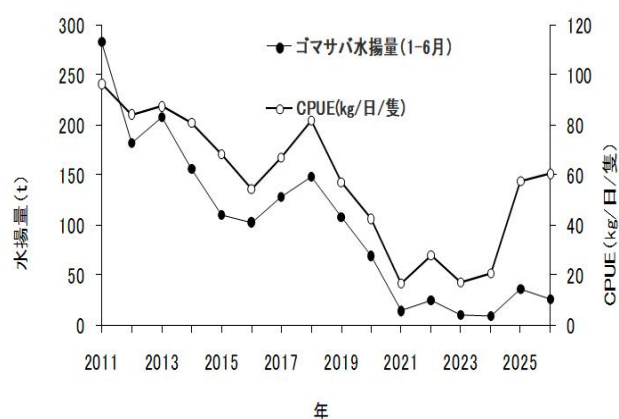


図 10 ゴマサバ立縄漁の水揚量及び CPUE

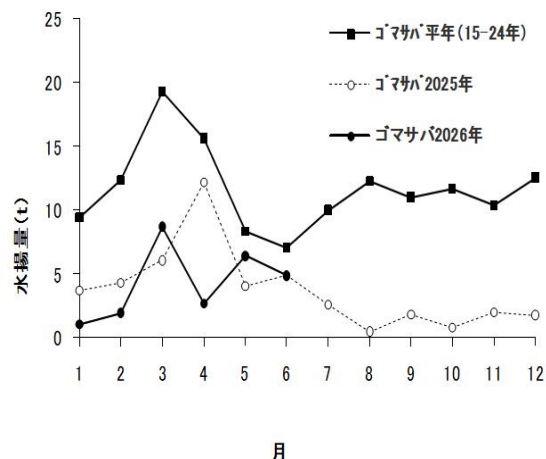


図 11 ゴマサバ立縄漁の月別水揚量

2 周辺各県

宮崎県：日向灘のまき網によるさば類の4月から6月の漁獲量は1トンで、前年比0%及び平年比0%（過去5年平均）でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網によるさば類の4月から6月の漁獲量は25.5トンで、前年比29.0%及び平年比2.6%（過去20年平均）でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部のまき網による1月から6月の漁獲量は289トンで、前年比74%及び平年比34%（過去10年平均）でした。熊野灘南部の定置網による漁獲量は153トンで、前年比227%及び平年比150%でした。

【漁況予測（2026年8月から12月）】

(1) 対象海域及び漁業種類：立縄（足摺岬周辺）

＊定置網及び中型まき網の漁況は年変動が大きく予測は困難です。

(2) 漁獲対象年級群及び体長：3歳魚（2023年生まれ）から5歳魚（2021級生まれ）

(3) 来遊量：立縄漁では、前年を上回るものの平年を下回る。

（参考）前年（2025年）8月から12月の立縄（足摺岬周辺）

「ゴマサバ」水揚量：6.9トン

説明：立縄漁で漁獲されるサバ類のほとんどはゴマサバです。近年のゴマサバ水揚量は、減少傾向であるが、2025年下半期及び2026年上半期の水揚量及びCPUE（kg/日/隻）が増加傾向であることから2026年下半期の水揚量は、前年を上回るものの平年を下回ると予測されます。なお、2025年度の資源評価においてマサバ及びゴマサバ太平洋系群の親魚量の動向は、近年5年間（2019～2023年）の推移から、マサバが減少傾向、ゴマサバが低い水準の増加傾向とされています。

II マアジ

【漁況経過（2026 年 1 月から 6 月）】

- (1) 宿毛湾中型まき網の水揚量は、363.8 トンで、前年比 279%、平年比 185%でした。
 銘柄別では、「ぜんご」（約 100g 未満）が 265.6 トンで、前年比 1,909%、平年比 200%、
 「あじ」（約 100g 以上）が 98.2 トンで、前年比 84%、平年比 152%でした。魚体測定した 1 月
 月の尾叉長組成は 22.0～27.9cm、5 月は 9.0～10.9cm が主体でした。
- (2) 窪津・椎名 2 定置網の合計水揚量は 373.0 トンで、前年比 213%、平年比 194%でした。
 魚体測定した尾叉長組成は、2 月が 21.0～22.9cm、3 月 16.0～17.9cm、4 月は 8.0～9.9cm、17.0
 ～18.9cm 及び 22.0～26.9cm が主体でした。

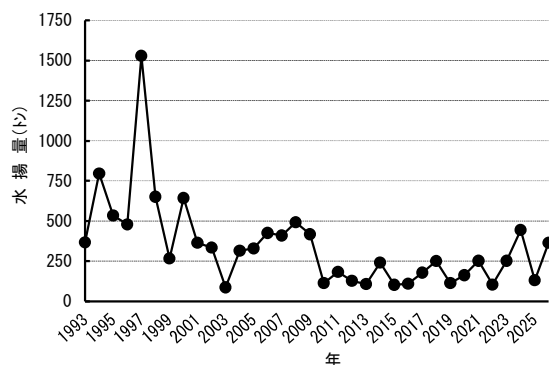


図 12 宿毛湾中型まき網によるマアジ水揚量の経年変化（1-6 月）

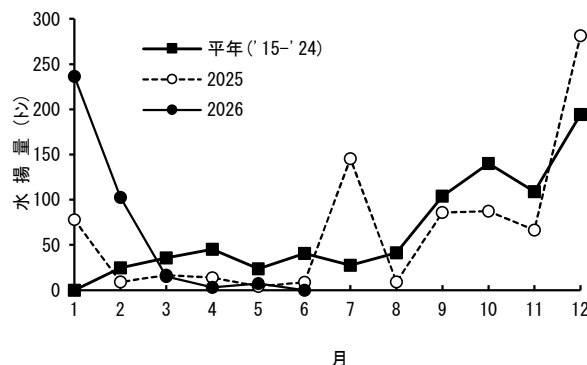


図 13 宿毛湾中型まき網による月別マアジ水揚量

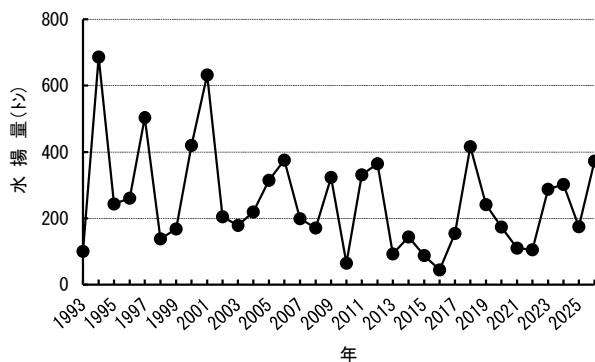


図 14 大型定置網（窪津・椎名の 2 水揚地合計）によるマアジ水揚量の経年変化（1-6 月）

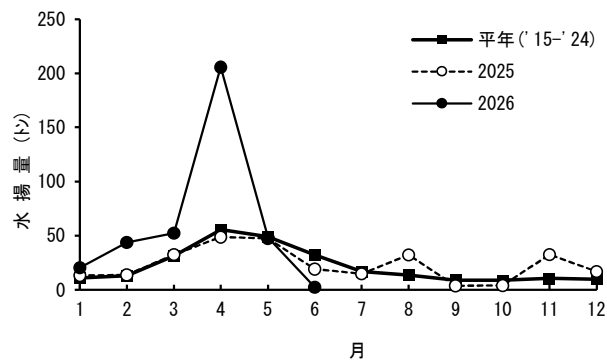


図 15 大型定置網（窪津・椎名の 2 水揚地合計）による月別マアジ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 195 トンで、前年比 113%、平年（過去 5 年平均）比 54%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 112.9 トンで、前年比 90.5%、平年（過去 20 年平均）比 24.6%でした。

和歌山県：紀伊水道外域まき網による 1 月から 6 月の水揚量は 174 トンで、前年比 418%、平年（過去 10 年平均）比 97%でした。

【漁況予測（2026年8月から12月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（2026 年生まれ）、1 歳魚（2025 年生まれ）

(2) 来遊量：前年を下回る。

(参考) 前年（2025 年）7 月から 12 月の宿毛湾の中型まき網

「ぜんご」水揚量：445.9 トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期の水揚量と下半期の水揚量には有意な正の相関がみられ（ $p < 0.01$ 、 $n=41$ 、 $R^2=0.38$ ）、2026 年の下半期の水揚量は 235.3 トンと予測されることから、来遊量は前年を下回ると予測されます。なお、2025 年度の資源評価において、マアジ太平洋系群の親魚量の動向は、「横ばい」とされています。

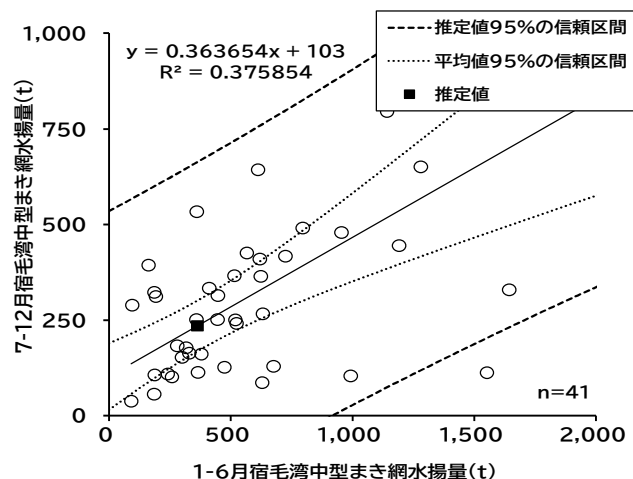


図 16 宿毛湾中型まき網におけるマアジの上半期水揚量と下半期水揚量との関係（1985～2026 年）

Ⅲ マイワシ

【漁況経過（2026 年 1 月から 6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は 3,083.0 トンで、前年比 989%、平年比 394%でした。

(2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による水揚量は 67.4 トンで、平年比 194%、前年比 1,829%でした。

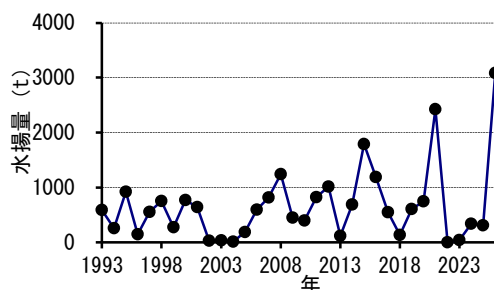


図 17 宿毛湾中型まき網によるマイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

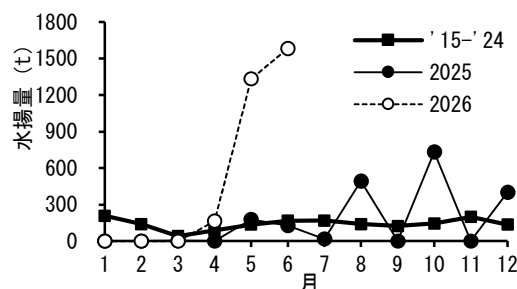


図 18 宿毛湾中型まき網による月別マイワシ水揚量

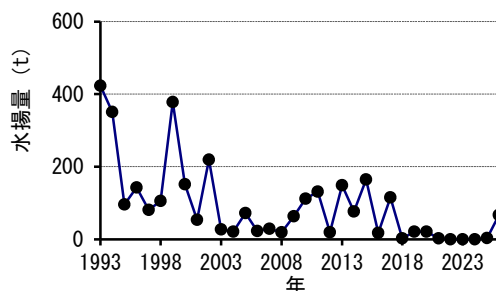


図 19 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）によるマイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

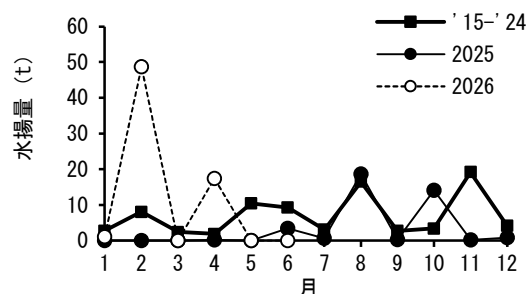


図 20 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による月別マイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による４月から６月の水揚量は11,921トンで、前年比337%、平年比631%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による４月から６月の水揚量は3,344.7トンで、前年比421.9%、平年比（1986年～2025年の平均値）109.5%でした。

愛媛県：豊後水道外域のまき網による４月から６月の水揚量は101.7トンで、前年比4.6%、平年比8.3%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘南部の1そうまき網による４月から６月の水揚はほとんどありませんでした。

【漁況予測（2026年8月から12月）】

（1）漁獲対象：0歳魚（2026年生まれ）及び1歳魚（2025年生まれ）以上。

（2）来遊量：前年を上回る

（参考）前年（2025年）8月から12月のマイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：1,630.7トン

定置網（窪津・椎名合計）：34.2トン

説明：来遊量：2026年1月～4月の土佐湾におけるマイワシのシラス漁況から、0歳魚（2026年級群）の発生は前年を上回ると考えられます。4～6月の宿毛湾における中型まき網の水揚量は前年を大幅に上回っており、来遊量は前年を上回ると予測されます。なお、2025年度の資源評価において、マイワシ太平洋系群の親魚量の動向は「横ばい」と評価されています。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（2026年1月から6月）】

1 高知県

（1）宿毛湾の中型まき網による水揚量は227.1トンで、前年比33%、平年比49%でした。銘柄別では、未成魚・成魚の銘柄「たれ（銘柄の被鱗体長は概ね65mm以上）」が216.5トンで、前年比32%、平年比72%、幼魚「どろ（銘柄の被鱗体長は概ね40mm～65mm）」が10.6トンで、前年比95%、平年比8%でした。

（2）宿毛湾の小型まき網による水揚量は0.2トンで、前年比34%、平年比0.3%でした。銘柄別では、未成魚・成魚「たれ」が漁獲なし、幼魚「どろ」が0.1トン、前年比66%、平年比0.3%、稚魚「かえり（銘柄の被鱗体長は概ね35mm～40mm）」が0.1トンで、前年比21%、平年比0.4%、でした。

（3）定置網（窪津・椎名2水揚地合計）水揚量は3.6トンで、前年比182,450%、平年比8%でした。

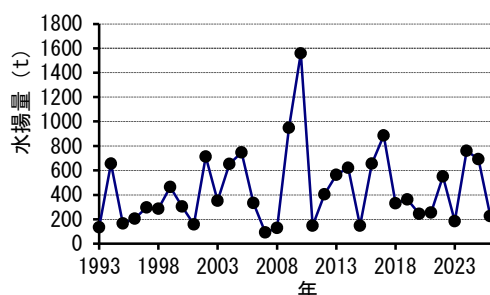


図 21 宿毛湾中型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1～6月）

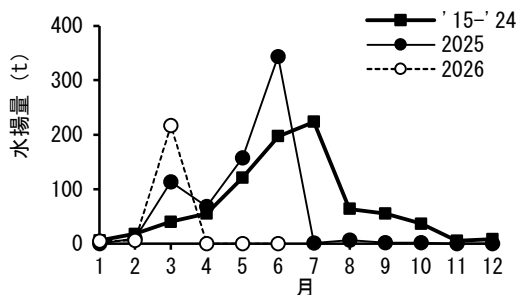


図 22 宿毛湾中型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

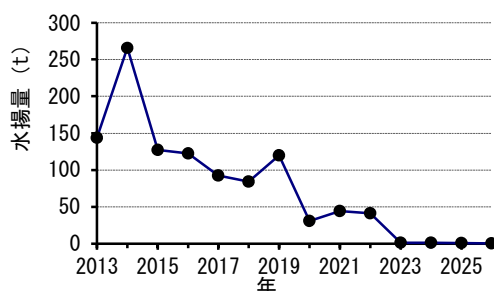


図 23 宿毛湾小型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

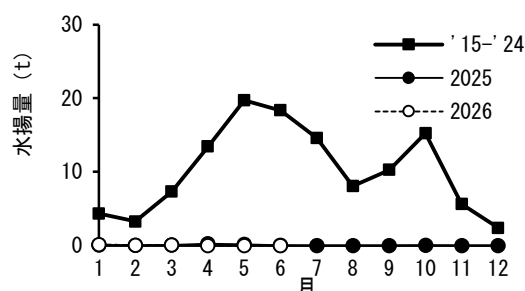


図 24 宿毛湾小型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

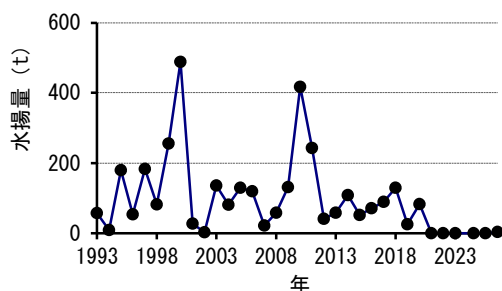


図 25 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

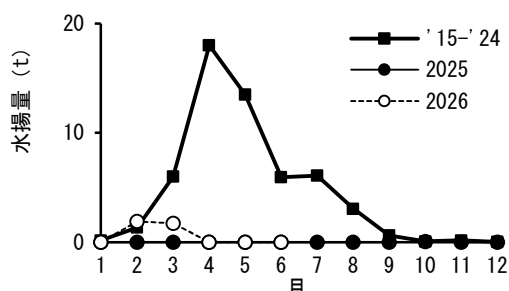


図 26 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による月別カタクチイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 34 トンで、前年比 12%、平年比 5%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 8.4 トンで、前年比 10.1%、平年比 1.5%でした。

愛媛県：豊後水道外域のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 5,043.2 トンで、前年比 260.9%、平年比 292.4%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（2026 年 8 月から 12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（2026 年生まれ）、1 歳（2025 年生まれ）以上。

(2) 来遊量：前年並

(参考) 前年（2025 年）8 月から 12 月のカタクチイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：10.1 トン

宿毛湾の小型まき網：0.01 トン

定置網（窪津・椎名合計）：0.1 トン

説明：4～6 月の中型まき定の水揚量は前年及び平年を、定置網では平年を下回っており、来遊量は低水準の前年並と予測されます。

なお、2025 年度の資源評価においてカタクチイワシ太平洋系群の親魚量の動向は「増加」と評価されています。

V ウルメイワシ

【漁況経過（2026 年 1 月から 6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は 985.1 トンで、前年比 215%、平年比 66%でした。

(2) 土佐湾中央部（宇佐）の多鈎釣による水揚量は0.1トンで、平年比0.1%でした。

(3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は6.1トンで、前年比19%、平年比26%でした。

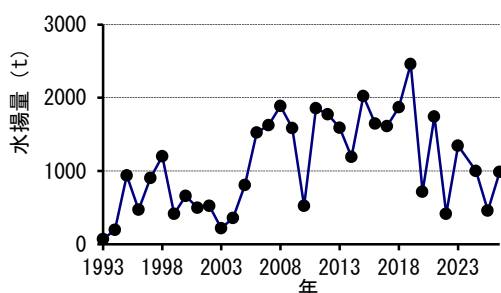


図 27 宿毛湾中型まき網によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

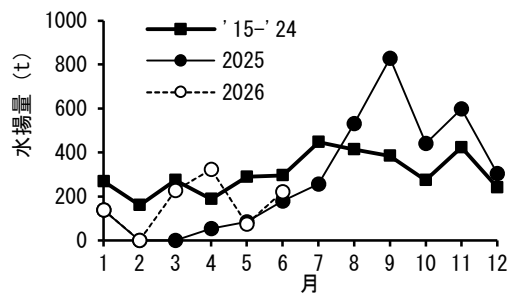


図 28 宿毛湾中型まき網による月別ウルメイワシ水揚量

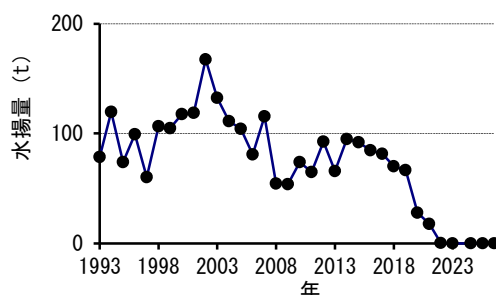


図 29 宇佐の多鈎釣によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

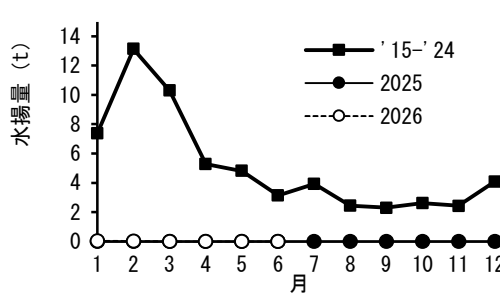


図 30 宇佐の多鈎釣による月別ウルメイワシ水揚量

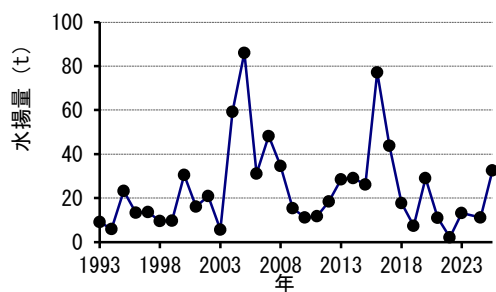


図 31 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）によるウルメイワシ水揚量の経年変化（1-6 月）

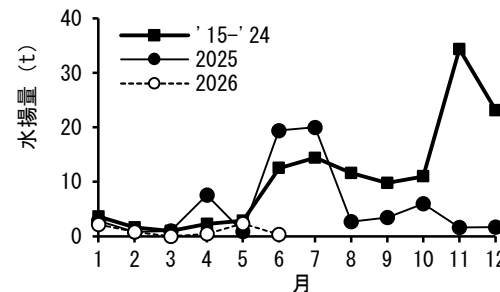


図 32 大型定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による月別ウルメイワシ水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 734 トンで、前年比 132%、平年比 52% でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 38.3 トンで、前年比 15.9%、平年比 18.1% でした。

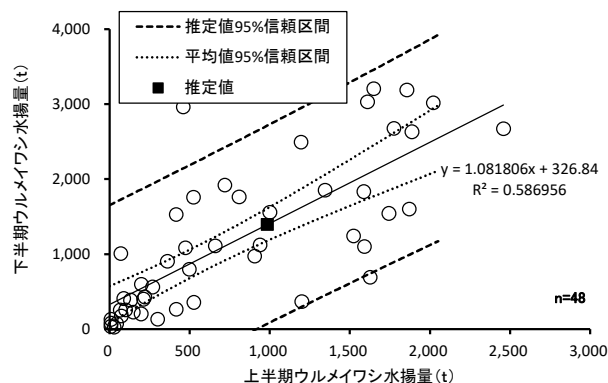
愛媛県：豊後水道外域のまき網による 4 月から 6 月の水揚量は 2,113.7 トンで、前年比 281.6%、平年比 198.8% でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘南部の 1 そうまき網による 4 月から 6 月の水揚はありませんでした。

【漁況予測（2026 年 8 月から 12 月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（2026年生まれ）、1歳（2025年生まれ）以上。
 (2) 来遊量：前年を下回る。
 (参考) 前年（2025年）8月から12月のウルメイワシ水揚量
 宿毛湾の中型まき網：2,703.3トン
 多鈎釣漁（宇佐）：0トン
 定置網（窪津・椎名合計）：15.4トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期の水揚量と下半期の水揚量には有意な正の相関がみられ（ $p < 0.01$ 、 $n=48$ 、 $R^2=0.586956$ ）、2026年の下半期の水揚量は1,392.6トンと予測されることから、来遊量は前年を下回ると予測されます。なお、2025年度の資源評価においてウルメイワシ太平洋系群は「減少傾向」にあります。



図

33 宿毛湾中型まき網におけるウルメイワシの上半期水揚量と下半期水揚量の関係（1978～2026年）

VI シラス

【漁況経過（2026年1月から6月）】

1 高知県

- (1) 機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦の7水揚地合計）による水揚量は348.5トンで、前年比109%、平年比59%でした。シラスの魚種組成は、1月はカタクチイワシ及びウルメイワシ、2月、3月はウルメイワシ及びマイワシ、4月以降はカタクチイワシ主体となりました。
 (2) 宿毛湾の小型まき網による水揚げはありませんでした。

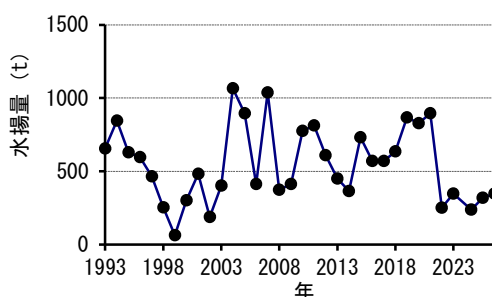


図 34 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）によるシラス水揚量の経年変化（1-6月）

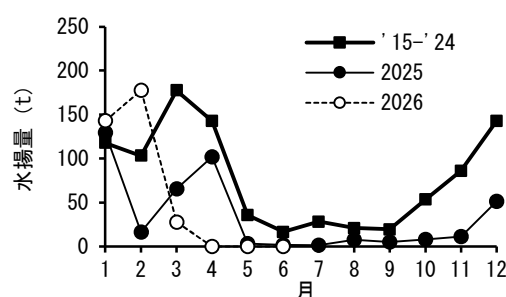


図 35 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）による月別シラス水揚量

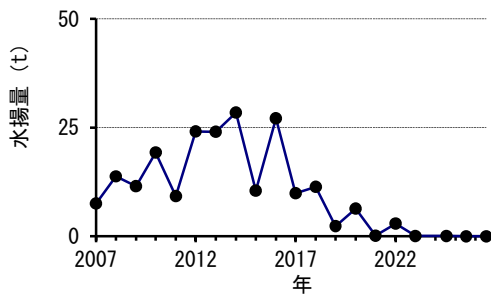


図 36 宿毛湾小型まき網シラス水揚量の経年変化（1-6 月）

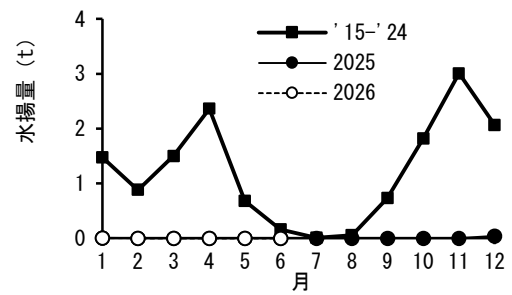


図 37 宿毛湾小型まき網シラス月別水揚量

2 周辺各県の経過

宮崎県：4 月から 6 月の総水揚量は 11 トンで、前年比 4%、平年比 5%でした。

大分県：佐伯湾における 4 月から 6 月の総水揚げ量は 45.2 トンで、前年比 133.6%、平年比 43.6%でした。

徳島県：紀伊水道内における 3 月から 6 月（主漁期 4 月から 6 月）の水揚量は 0.4 トンで、前年比 85%、平年（直近 5 年平均値）比 25%でした。

大阪府：大阪湾における 1 月から 6 月（主漁期 4 月から 6 月）の水揚量は 218.0 トンで、前年比 206%、平年（直近 10 年平均値）比 149%でした。

【漁況予測（2026 年 8 月から 12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（2026 年生まれ）

(2) 来遊量：シラスの来遊には、産卵親魚の産卵状況、他海域からの卵稚仔の輸送、餌料、漁場形成に影響する沿岸域の海洋環境等が複雑に影響することから、現時点では長期予測を行う根拠を見いだせていません。